

アクモスグループの新鮮情報をお伝えするIRマガジン

ACMOS HIGHWAY

アクモス ハイウェイ

Top Message

個性豊かなグッドカンパニーへ
～専門特化を進め、さらなる発展を目指す～

特集

中期経営計画Ⅱ (2019/07-2022/06)

アクモスジャンクション

アクモス株式会社 自社製品SYMPROBUSシリーズ
アクモスグループ 生産性向上への取り組み

アクモス 株式会社

証券コード：6888

2019
Vol.16

アクモスの事業

アクモスグループは、お客様に感動していただける プロフェッショナルなサービスを提供いたします。

アクモスグループはアクモス株式会社および子会社3社で構成され、各社の連携ならびにパートナー企業との協力により、お客様のニーズに応えるITソリューション、ITサービスを提供しています。
持続的な成長の実現を目指して、輝くICTサービスで社会の向上に貢献するべく活動してまいります。

ITソリューション事業



ネットワーク構築

ITインフラを安全かつ確実に
稼働させるためのトータル
ソリューション提供
・サーバー環境や大規模ネット
ワークの構築・保守
・セキュリティ関連の診断 など



地図情報提供サービス

地図に関わる情報や
システムの提供
・地図デジタルデータの入力
・一般企業や自治体の地理情報
システムの構築
・GISエンジンの販売
・インターネット地図情報配信
など



システム運用監視

システムの安定運用により
お客様の業務遂行を
バックアップ
・24時間365日対応の客先常駐
型運用 など



SI・ソフトウェア開発

お客様の情報に関わる
ITソリューションを提供
・一般企業の業務システム
・自治体のITソリューション
・宇宙関連システム
・消防通信指令システム など



医療情報システム

病院内システムの導入から
運用管理までをサポート
・コンサルティング
・システム構築
・運用管理 など

ITサービス事業



ビジネスプロセスアウトソーシング

お客様の業務効率化と
コスト削減を実現し、
ビジネスプロセスを最適化
・ストレスチェック関連サービス
・コールセンターや事務局の運
営 など



情報処理サービス

お客様の情報に関わる
ITサービスを提供
・データ入力
・マークシート・WEBでのアン
ケート制作(印刷) から集計
・試験採点や選挙集計
・オンデマンド印刷・封入発送作
業 など

長期ビジョン2025

私たちは輝くICTサービスで
社会の向上に貢献します。

目指すべき方向性

- 1.アクモスグループは、きらりと光るICTサービスを提供して持続的な成長を実現します。
- 2.アクモスグループは、個性豊かな企業集団を目指します。

長期数値目標

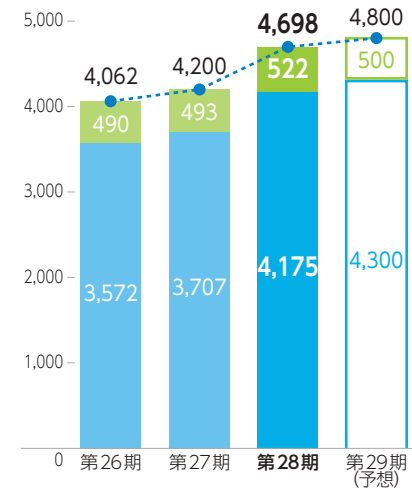
株主資本利益率(ROE)
15%

時間当たり付加価値
5,000円

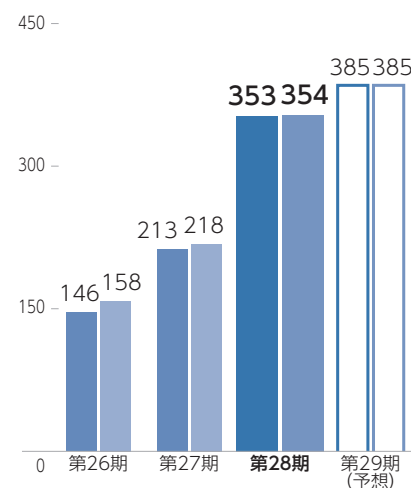
当社グループは、2016年7月に制定した「長期ビジョン2025」の達成を目指し、3年おきにより具体的な計画である中期経営計画を策定して推進しています。

財務ハイライト

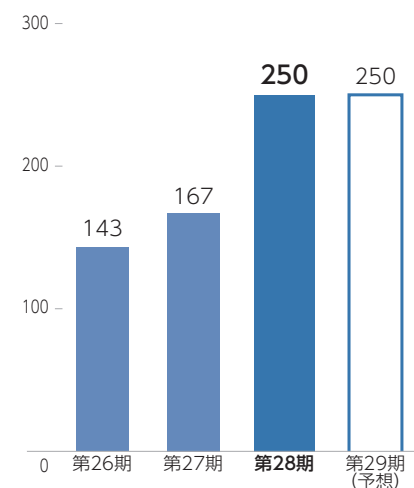
売上高 (単位:百万円)
ITソリューション事業 ITサービス事業 連結



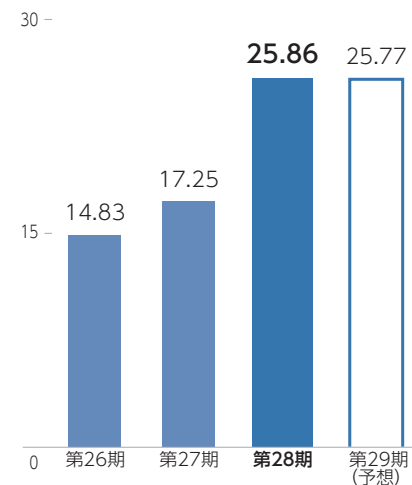
営業利益 経常利益 (単位:百万円)



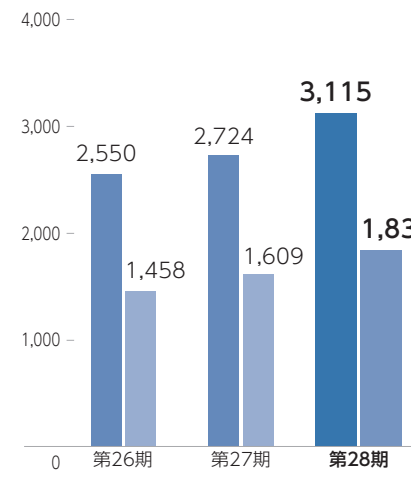
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



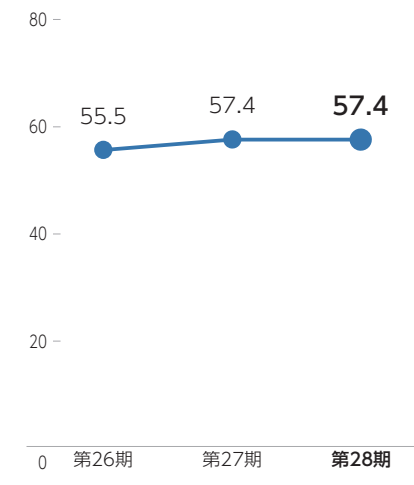
1株当たり当期純利益 (単位:円)



総資産 純資産 (単位:百万円)



自己資本比率 (単位:%)



※自己資本比率=自己資本(純資産-新株予約権-非支配株主持分)/総資産



代表取締役会長 兼 CEO
飯島 秀幸

代表取締役社長 兼 COO
清川 明宏

個性豊かなグッドカンパニーへ ～専門特化を進め、さらなる発展を目指す～

第28期のご報告

～専門特化による事業変革を推進～

当社第28期は、中期経営計画Ⅰ（2016/07-2019/06）の最終年度として「変革」をテーマにグループ各社が専門特化による事業変革を推進しました。グループ全社で導入している部門別採算制度（ウィングシステム）を活用した付

加価値・稼働率の向上の取り組みが成果を上げてきており、業績向上につながりました。

特にITソリューション事業は、企業のIT投資の拡大傾向による良好な受注環境のもと、システムエンジニアリングサービスが中心となり業績の伸長を牽引しました。自社製品である標的型攻撃メール対応訓練『SYMPROBUS Targeted

Mail Training』は、おかげさまで多くのお客様に好評をいただきました。さらなるご要望にお応えするため高機能タイプの『SYMPROBUS CoTra』を昨年リリースし、大手企業様を中心に導入が進んでおります。

以上の結果、第28期の連結業績は、売上高4,698百万円（前期比11.8%増）、営業利益353百万円（前期比66.0%増）、経常利益354百万円（前期比62.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益250百万円（前期比49.9%増）、経営指標として掲げている株主資本利益率（ROE）は15.0%（前期は11.2%）、時間当たり付加価値は3,425円（前期は3,118円）となりました。なお、非連結子会社を吸収合併したことによる抱合せ株式消滅差益14百万円、来期に予定しております修繕の引当金16百万円を計上しております。

中期経営計画Ⅱ

～個性豊かなグッドカンパニーへ～

中期経営計画Ⅰ（2016/07-2019/06）では専門特化に向けた順調なスタートをきり、事業分野ごとの課題はあるもののグループで目指した数値目標をクリアすることができました。

長期ビジョン2025の第2段階としてスタートした中期経営計画Ⅱ（2019/07-2022/06）では、「個性豊かなグッドカンパニーへ」をグループ共通のビジョンとして掲げてまいります。

個性豊かなグッドカンパニーへ

Good Business

専門特化した製品・サービスの創出やアライアンス活用により、お客様が求めるICTサービスを提供し、社会の向上に貢献する

Good Value

安定的収益を確保しながら、持続的な成長を実現する

Good Members

社員とともに成長し、幸せを追求する



3年間を通したテーマは「発展」として、明確になった課題を克服しながら専門特化をさらに深耕し、ウィングシステムによる採算管理の継続、人材採用・育成の強化や生産性向上への取り組みとともに、付加価値アップによる既存事業の収益力向上および成長の種となる自社サービスの創出・展開を進めてまいります。そして、2022年6月期の売上高5,600百万円、営業利益560百万円、ROE15%、営業利益率10%の数値目標達成にむけて、グループ一丸となって取り組んでまいります。

第29期の展望

～専門特化をさらに深耕し、発展を目指す～

中期経営計画Ⅱ（2019/07-2022/06）の初年度となる第29期は、お客様から評価をいただいている分野・ソリューションのさらなる「発展」を図り、信頼を勝ち得ていく所存です。

SI・ソフトウェア開発分野では、自治体（消防、防災）・宇宙・自動車関連・空間情報に特化したソリューションを発展させてまいります。そしてIT基盤・ネットワーク構築分野は情報セキュリティ・医療、情報処理サービス分野では引き続き健康・教育に特化してソリューションを提供してまいります。

自社サービスも分野を絞ってそれぞれ独自のサービスを展開して認知度の向上を果たし、お客様の成長に貢献してまいります。

第29期の連結業績は、売上高4,800百万円（前期比2.2%増）、営業利益385百万円（前期比8.9%増）、経常利益385百万円（前期比8.7%増）と増加を見込んでおりますが、親会社株主に帰

属する当期純利益は前期と同じ250百万円を見通しております。これは、第28期には特別利益として非連結子会社を吸収合併したことによる抱合せ株式消滅差益14百万円を計上したことに加え、第29期は税務上の欠損金がなくなり税金費用が11百万円増加する見込みであるためであります。経営指標は、株主資本利益率（ROE）13.0%以上、営業利益率8.0%を目指して進んでまいります。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

先にご報告申し上げた通り、中期経営計画Ⅰ（2016/07-2019/06）の目標を達成いたしましたことは何よりみなさまのご支援の賜物と心より感謝いたします。

おかげさまをもちまして9月26日に行われた株主総会におきまして、当初予定しておりました一株当たり4円から増配し、5円とする決議を株主のみなさまより頂いたところでございます。

アクモスグループはさらなる「発展」を目指して前進してまいります。株主のみなさまには、引き続きご理解とご支援を賜りますよう深くお願い申し上げます。



※ 中期経営計画Ⅱ（2019/07-2022/06）については、7～8ページに記載しております。

アクモスグループでは、2025年6月期までに取り組むべき事業の方向性「長期ビジョン2025」の最初の3年間の計画として進めてきた「中期経営計画Ⅰ（2016/07-2019/06）」の終了に伴い、新たに次の3年間の計画「中期経営計画Ⅱ（2019/07-2022/06）」を策定しました。

個性豊かなグッドカンパニーへ

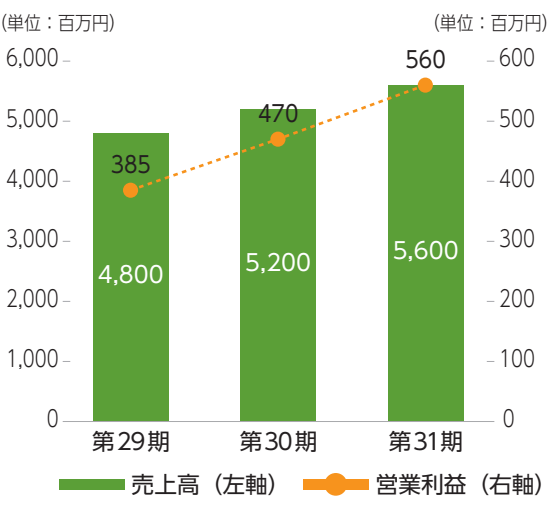
テーマ

✦ 発展 ✦

専門分野を深耕し、
新サービスでお客様を獲得

経営目標 KPI

	第29期 2020年6月期	第30期 2021年6月期	第31期 2022年6月期
売上高	4,800百万円	5,200百万円	5,600百万円
営業利益	385百万円	470百万円	560百万円
経常利益	385百万円	470百万円	560百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	250百万円	300百万円	370百万円
株主資本利益率（ROE）	13%	14%	15%
営業利益率	8%	9%	10%



基本方針

Good Business

専門特化した製品・サービスの創出やアライアンス活用により、
お客様が求めるICTサービスを提供し、社会の向上に貢献する

Good Value

安定的収益を確保しながら、持続的な成長を実現する

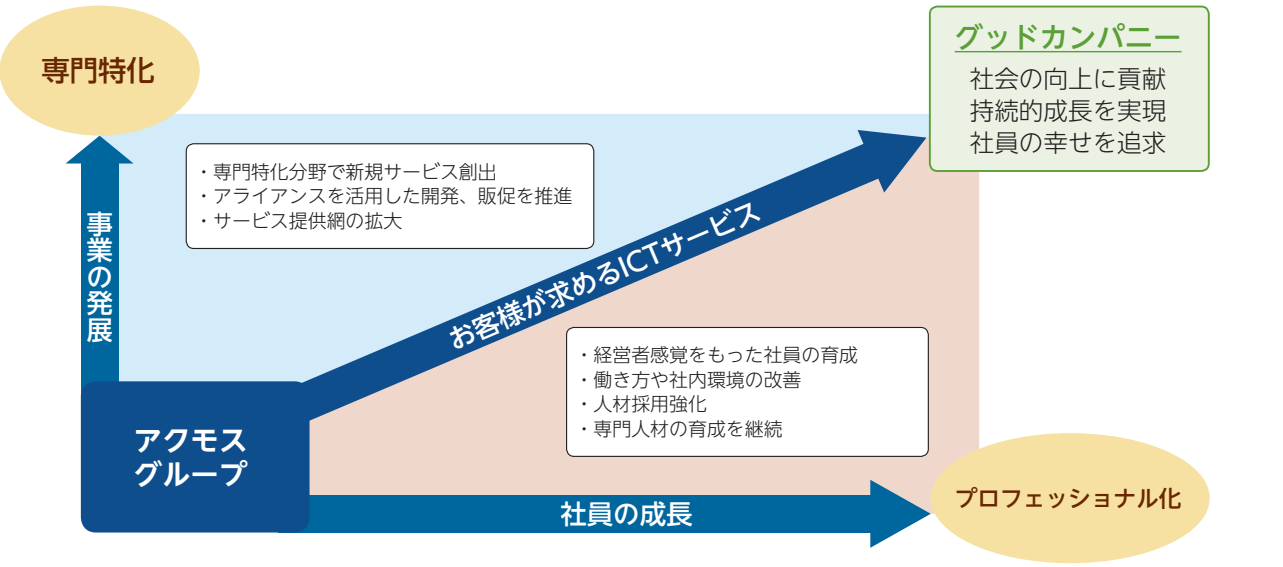
Good Members

社員とともに成長し、幸せを追求する

事業の方向性

専門特化分野を強化し、付加価値アップによる既存事業の収益力向上と、成長の種となる自社サービスの創出・展開を推進

	ITソリューション		ITサービス
専門特化分野	自治体（消防・防災）, 宇宙,自動車,空間情報	情報セキュリティ,医療	健康,教育
既存事業	SI・ソフトウェア開発	IT基盤・ネットワーク構築	情報処理サービス
自社サービス	・ 標的型攻撃メール訓練『SYMPROBUS TMT/CoTra』 ・ 消防通信指令システム『SYMPROBUS F』 ・ 防災行政無線戸別受信機管理システム『SYMPROBUS-ReceiveMan』 ・ 統計調査支援システム ・ 森林ICTプラットフォーム など		・ クラウド健康管理システム『LIFEDESK』 ・ 健康経営ソリューション『HPMスコア診断サービス』など



組織戦略

部門別採算管理ウィングシステムを引き続き推進し、
事業のさらなる進化を目指す

人材戦略

- ・ 戦略的採用活動の推進による人材採用の強化
- ・ 専門性を高めるための人材育成を継続
- ・ 生産性向上にむけた働きやすい環境の整備

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表

(単位：千円)		
科 目	第27期 2018年6月30日現在	第28期 2019年6月30日現在
資産の部		
流動資産	2,302,681	2,726,084
固定資産	421,753	389,128
有形固定資産	204,613	193,383
無形固定資産	49,735	60,222
投資その他の資産	167,404	135,522
資産合計	2,724,434	3,115,213
負債の部		
流動負債	1,108,008	1,220,510
固定負債	6,644	59,290
負債合計	1,114,653	1,279,800
純資産の部		
株主資本	1,553,993	1,775,730
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,176,282	1,176,282
利益剰余金	△ 261,627	△ 39,890
自己株式	△ 53,911	△ 53,911
その他の包括利益累計額	10,895	10,957
非支配株主持分	44,892	48,724
純資産合計	1,609,781	1,835,413
負債純資産合計	2,724,434	3,115,213

Point 1 資産の部

資産は、前期末に比べ390百万円増加しています。

流動資産の増加の主な理由は、現金及び預金の増加403百万円、売掛金の増加48百万円があったことによるものです。

固定資産の減少の主な理由は、非連結子会社を吸収合併したことによる関係会社株式の減少64百万円があったことによるものです。

Point 2 負債の部

負債は、前期末に比べ165百万円増加しています。

流動負債の増加の主な理由は、短期借入金の減少111百万円、未払金の増加38百万円、未払費用の増加59百万円、未払法人税等の増加82百万円、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）の増加41百万円があったことによるものです。

Point 3 純資産の部

純資産は、前期末に比べ225百万円増加しています。

純資産の増加の主な理由は、親会社株主に帰属する当期純利益250百万円の計上によるものです。

※『税効果会計に係る会計基準』の一部改正』等を第28期の期首から適用しており、第27期については、当該会計基準等を遡って適用し表示しております。

■ 連結損益計算書

(単位：千円)		
科 目	第27期 (自 2017年7月 1日 至 2018年6月30日)	第28期 (自 2018年7月 1日 至 2019年6月30日)
売上高	4,200,704	4,698,233
売上原価	2,926,079	3,218,988
売上総利益	1,274,624	1,479,244
販売費及び一般管理費	1,061,594	1,125,630
営業利益	213,029	353,613
営業外収益	9,860	3,244
営業外費用	4,265	2,713
経常利益	218,624	354,145
特別利益	—	14,434
特別損失	1,878	1,864
税金等調整前当期純利益	216,746	366,715
法人税等	47,557	111,363
当期純利益	169,189	255,352
非支配株主に帰属する当期純利益	1,892	4,516
親会社株主に帰属する当期純利益	167,296	250,836

Point 連結損益計算書

ITソリューション事業において、メーカーでのシステム更新に伴う常駐型開発案件が高水準で稼働していること、公共システム向け大型表示盤の納品や、地方自治体から受注したシステム更新案件・納品があったことなどにより、売上高4,698百万円（前期比11.8%増）、営業利益353百万円（前期比66.0%増）、経常利益354百万円（前期比62.0%増）、非連結子会社を吸収合併したことによる抱合せ株式消滅差益14百万円を特別利益として計上し、親会社株主に帰属する当期純利益250百万円（前期比49.9%増）となりました。

■ 連結包括利益計算書

(単位：千円)		
科 目	第27期 (自 2017年7月 1日 至 2018年6月30日)	第28期 (自 2018年7月 1日 至 2019年6月30日)
当期純利益	169,189	255,352
その他の包括利益	2,466	61
包括利益	171,655	255,413
(内訳) 親会社株主に係る包括利益	169,763	250,897
非支配株主に係る包括利益	1,892	4,516

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)		
科 目	第27期 (自 2017年7月 1日 至 2018年6月30日)	第28期 (自 2018年7月 1日 至 2019年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	290,612	487,675
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 18,592	△ 57,783
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 79,783	△ 99,383
現金及び現金同等物の増減額	192,236	※403,871
現金及び現金同等物の期首残高	1,378,800	1,571,036
現金及び現金同等物の期末残高	1,571,036	1,974,908

※非連結子会社であった株式会社エクスカルを吸収合併したことに伴う増加額73,361千円を含んでおります。

Point 連結キャッシュ・フロー計算書

（営業活動によるキャッシュ・フロー）
法人税等の支払額53百万円、売上債権の増加31百万円があった一方、たな卸資産の減少28百万円、税金等調整前当期純利益366百万円、資金の移動を伴わない減価償却費45百万円があったことによるものです。
（投資活動によるキャッシュ・フロー）
有形固定資産の取得による支出19百万円、無形固定資産の取得による支出32百万円によるものです。
（財務活動によるキャッシュ・フロー）
長期借入による収入150百万円があった一方、配当金の支払額28百万円、短期借入金の返済による支出111百万円、長期借入金の返済による支出108百万円があったことによるものです。

アクモス株式会社

自社製品 SYMPROBUS シリーズ

SYMPROBUSは、アクモスのシステムインテグレーション関連製品の共通ブランドとして2012年に誕生し、自治体（消防・防災）、情報セキュリティの分野を中心に、これまでさまざまな製品を創出してきました。今後も、お客様の求めるICTサービスの提供に向けて取り組みを続けていきます。

防災行政無線戸別受信機管理システム

防災行政無線戸別受信機管理システム「SYMPROBUS-ReceiveMan」は、防災行政無線戸別受信機（※）を管理するためのシステムで、当子会社ASロカスの地理情報システムを採用したわかりやすく直感的な画面表示と、バーコード付きラベルを使用した簡単・確実な管理を実現しています。

地図情報システム上で受信機の配布情報を視覚的にとらえ、分析や統計にも役立てることができるため、導入先のお客様からはご好評いただいています。

※防災行政無線戸別受信機とは、自治体が屋外スピーカーで発信する災害の発生・避難の情報を屋内でも受信するための小型受信機で、それぞれの自治体が販売や貸し出しを行っています。



標的型攻撃メール対応訓練ソリューション

標的型攻撃メール対応訓練ソリューション「SYMPROBUS TMT/CoTra/CoTra Enterprise」には、さまざまなお客様からお問い合わせ、お引き合いをいただいています。

2019年6月に新たにリリースした「SYMPROBUS CoTra Enterprise」は、ベースとなる「CoTra」がもつ中長期的に標的型攻撃メール対応訓練を継続したいお客様むけの機能に加え、訓練メールの内容や配信タイミング等を細かく制御できるようにすることで、より柔軟な訓練を可能にしたサービスです。今後も継続して機能追加を行い、さらなるお客様の獲得に努めます。

標的型攻撃メール対応訓練ソリューション製品サイト

URL : <https://tmt.cloudmenu.jp>



アクモスグループ

生産性向上への取り組み

アクモスグループ各社では、働き方改革推進に欠かせない生産性の向上にむけて、柔軟な働き方の実現や、社内コミュニケーションの強化を進めています。

- ・2019年7月よりフレックスタイム制度を導入。働く時間に自由度をもたせることにより社員の仕事と生活の両立を図り、業務効率や生産性の向上を目指す（アクモス）
- ・時間単位の有給休暇制度を導入するとともに、育児時差勤務制度を新設し、育児勤務制度の利用可能期間も延長するなど、仕事と育児の両立支援に取り組む（ASロカス）
- ・社内活性化プロジェクトを推進。出張カルチャー教室として社内に講師を招いて紅茶教室や椅子ヨガを行うなど、社員の気分転換や社員間コミュニケーションの活性化を図る（ジイズスタッフ）

アクモスグループでは今後も働きやすい環境の整備を進め、生産性向上にむけた取り組みを続けていきます。



株式会社ジイズスタッフ 社内活性化プロジェクト（左：紅茶教室、右：椅子ヨガ）

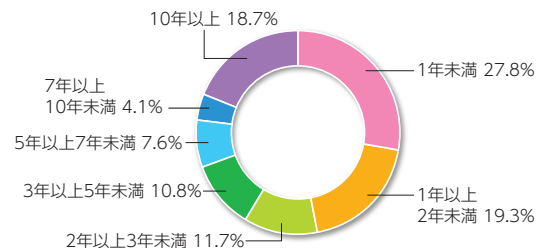
アンケート結果報告

2018年秋発行のアクモスハイウェイに同封の「株主さまアンケート」につきまして、多くのみなさまから貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

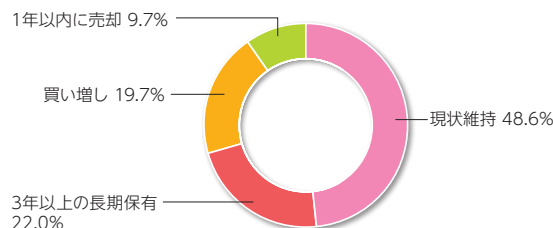
アンケート実施概要

実施期間：2018年9月27日～2018年10月31日
ご回答いただいた株主さま 322名 (全体の6.4%)

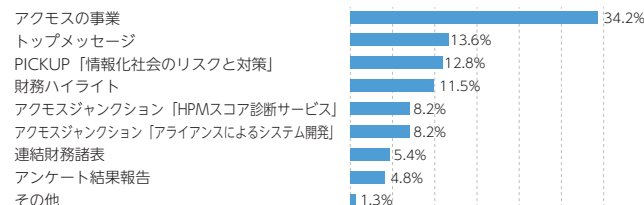
Q1 ▶▶▶ 当社の株式の保有期間



Q2 ▶▶▶ 今後の当社株式の保有についての方針をお聞かせください



Q3 ▶▶▶ 前回の「アクモスハイウェイ」で興味をもたれた記事をお選びください (複数回答可)



アンケートご協力をお願い

当社では、株主のみなさまとのコミュニケーション充実を図るため、毎年、株主さまアンケートを実施しています。いただいたご意見・ご要望は、経営やIR活動の参考とさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

アンケート締切日：2019年10月31日 (消印有効)

社会貢献活動報告

当社が募金活動による寄付を通して活動を支援させていただいている特定非営利法人ピースウィンズ・ジャパンからレポートをいただきました。

ピースウィンズ・ジャパン (PWJ) 南スーダン支援レポート

いつもご支援を賜り、誠にありがとうございます。PWJの南スーダン事業は、国内避難民キャンプとその周辺地域での事業を継続しています。キャンプでは給水衛生設備の確保およびコレラ対策を実施し、周辺地域に対しては衛生的な居住環境の整備に貢献しました。今後も南スーダンの人々が、より健康に生活できるよう支援を続けていきます。



太陽光パネル式給水施設の改修



幼稚園の子どもたちに囲まれるスタッフ

会社概要 / 株式の状況

■ 会社の概況 (2019年6月30日現在)

商号	アクモス株式会社
設立	1991年8月23日
資本金	6億9,325万円
社員数	連結387名 (単体243名)
主な事業	・ITソリューション - IT基盤設計・構築 - SI・ソフトウェア開発 - システム運用・保守 - 業務系アプリケーション開発 - 地図情報提供サービス ・ITサービス - 情報処理サービス - ビジネスプロセスアウトソーシング

■ 役員の状況 (2019年9月26日現在)

代表取締役会長 兼 CEO	飯 島 秀 幸
代表取締役社長 兼 COO	清 川 明 宏
取締役専務執行役員	石 川 稔
取締役専務執行役員	深 作 耕 一
社外取締役 (常勤監査等委員)	西 山 達 男
社外取締役 (監査等委員)	板 垣 雄 士
取締役 (監査等委員)	金 子 登志雄

※第28回定時株主総会終了後の状況を記載しております。

■ 主な事業所

本社	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8 ユニゾ神田小川町三丁目ビル TEL：03-5217-3121
茨城本部	〒319-1112 茨城県那珂郡東海村村松2713番地7 TEL：029-270-5555
つくばオフィス	〒300-0847 茨城県土浦市卸町一丁目1番1号 関鉄つくばビル2F TEL：029-834-3391

■ 株式の状況 (2019年6月30日現在)

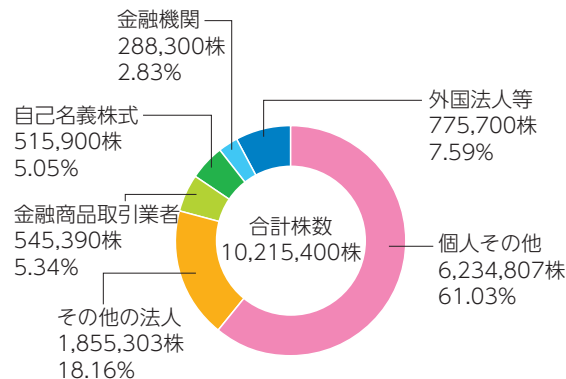
発行可能株式総数	32,300,000 株
発行済株式総数	10,215,400 株
議決権を有する株主数	4,720 名

上位10名の株主の状況

株主名	持株数 (株)
コンセーユ・ティ・アイ株式会社	1,830,000
飯島秀幸	1,026,400
アクモスグループ社員持株会	285,400
資産管理サービス信託銀行株式会社	252,000
山下良久	245,700
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	184,000
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	162,000
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	126,000
BNY FOR GCM CLIENT ACCOUNTS (E) BD	104,224
金子登志雄	96,000

※自己株式を除く発行済株式総数の上位10名の株主を記載しております。

所有者別株式分布状況



■ 株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月下旬
公告方法	電子公告 https://www.acmos.co.jp/ir/brief_note.html (電子公告により行なうことが事故その他やむをえない事情によりできない場合には、日本経済新聞に掲載して行ないます。)
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先※	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電 話：0120-232-711(通話料無料) 郵送先： 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
■ 株券の電子化に伴い、株主様の住所変更、その他の各種手続きについては、原則として、証券取引口座を開設されている証券会社等で承ることになっております。	
■ 特別口座に記録された株式の各種手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部にお問い合わせください。	



本社
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8
ユニゾ神田小川町三丁目ビル
TEL：03-5217-3121
FAX：03-5217-3122



JR東海駅より車で10分

茨城本部
〒319-1112
茨城県那珂郡東海村村松2713番地7
TEL：029-270-5555
FAX：029-270-5531



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境に配慮した用紙、インク
を採用しています。



証券コード：6888



アクモス 株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8 ユニゾ神田小川町三丁目ビル
TEL：03-5217-3121 FAX：03-5217-3122 <https://www.acmos.co.jp/>

編集・発行 アクモス株式会社 経営企画管理部
制作 宝印刷株式会社